

佐賀市佐賀地区 大規模雨水処理施設整備事業計画

(様式1)

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>佐賀市の平野部は、県都を有しているばかりか、わが国の一大穀倉地帯として古くから稲作が盛んに行われており、水路やクリークが縦横に巡り潤いのある水辺空間を形成している。しかし、地形が低平で有明海の満潮位より低い土地が広く分布し、古来より水害に悩まされてきている。近年においては都市化の進展に浸水対策が追いつかず、頻発する集中豪雨等により市街地を中心に毎年のように浸水被害が発生し、都市機能を麻痺させ社会経済に与える影響は大きく浸水対策は市の急務の課題となっている。これらの浸水は、ほとんどが内水氾濫によるもので、広範囲に及び長時間にわたることが特徴である。また、佐賀平野は近世からの干拓により広がり、網の目のように発達したクリークや複雑な用排水慣行があり浸水軽減対策を難しくしている。</p> <p>平成2年7月の豪雨災害を受け、佐賀江川の河川激甚災害対策特別緊急事業をはじめとした県、市の治水事業等により浸水被害は大幅に軽減されてきた。しかし、近年、平成20年6月、平成21年7月、平成24年7月に市街化区域を中心として浸水被害が発生している。ここには、病院や老人ホーム等の要配慮者施設が集積しているばかりか、浸水はJR佐賀駅前などの重要都市施設、県庁、市役所や商店街が分布する地域に広がり、都市機能が一時的に麻痺している。浸水戸数は降雨規模によらずほぼ同じで500戸～600戸が床下浸水しており、生命の保護、都市機能の確保、個人財産の保護等の観点から、早急な浸水対策が求められる</p>
整備目標	<p>① ハード整備による目標水準：61mm/h</p> <p>現在、佐賀市が進めている公共下水道計画の計画雨量は、確率10年の中央集中型降雨61mm/hである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画における照査降雨：91mm/h</li> <li>・目標とする理由：平成24年7月佐賀地区で記録した既往最大降雨 91mm/h<sup>(注)</sup></li> </ul> <p><sup>(注)</sup>平成28年度佐賀市下水道浸水被害軽減総合計画策定時点。</p> <p>② 目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i)生命の保護の観点：当該排水区に存在する高齢者・障害者等の要配慮者施設の床上浸水を軽減する。</li> <li>ii)都市機能の確保の観点：機能保全水深を20cmとし、都市機能を概ね確保する。</li> <li>iii)個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を軽減する。</li> <li>iv)その他：特になし</li> </ul> <p>③ ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i)ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備により60mm/hの降雨において市街地部の浸水深を機能保全水深20cm程度にとどめ、浸水被害を軽減することを目的とする。</li> </ul> </li> <li>ii)ソフト対策及び自助</li> </ul>

	<p>施設整備で対象とする降雨量を上回る既往最大降雨 91mm/h の降雨において、下水道管理者による内水ハザードマップ作成・公表などの情報提供、地域住民等による土のうの設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害を出来るだけ小さくする。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

項目	内容・施策等				
内水ハザードマップ策定状況	(有) (平成 25 年 12 月策定済み)				
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水開渠の整備               <ul style="list-style-type: none"> <li>尼寺雨水幹線：延長 1,330m</li> <li>十間堀川雨水幹線：延長 340m</li> <li>新村愛敬雨水幹線狭窄部改修：延長 32m</li> <li>平松厘外雨水幹線：延長 580m</li> <li>城東川雨水幹線：延長 440m</li> </ul> </li> <li>雨水調整池の整備               <ul style="list-style-type: none"> <li>尼寺調整池：貯留量 33,000m<sup>3</sup></li> <li>城西厘外調整池：貯留量 19,000m<sup>3</sup></li> </ul> </li> <li>雨水ポンプ場               <ul style="list-style-type: none"> <li>尼寺雨水ポンプ場：排水量 6m<sup>3</sup>/s</li> <li>石塚雨水ポンプ場：排水量 4m<sup>3</sup>/s</li> <li>厘外雨水ポンプ場：排水量 2m<sup>3</sup>/s</li> <li>今宿雨水ポンプ場：排水量 1.4m<sup>3</sup>/s</li> </ul> </li> <li>貯留施設               <ul style="list-style-type: none"> <li>お濠貯留：貯水量 34,000m<sup>3</sup></li> </ul> </li> </ul>	
			下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>本庄江広域河川改修：延長 1.35km</li> <li>準用河川地藏川改修：延長 0.63km</li> <li>準用河川城東川改修：延長 1.1km</li> </ul> </li> </ul>	
			ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>内水ハザードマップの作成・公表</li> <li>防災パンフレットの作成と広報：全戸配布済み</li> <li>浸水標尺の設置、活用：82 基設置済み</li> <li>佐賀市防災総合システムによる下水道施設の遠方監視・操作</li> <li>下水道開渠内水位等の観測と観測情報の蓄積</li> <li>内水氾濫シミュレーションの実施 (対策時の施設計画及び対策後の効果検証)</li> </ul>
				下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀市防災総合システム (H26 年度運用開始) 施設の遠隔操作</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存施設の連携操作：国、県、市の連携        蒲田津水門操作        尾の島水門操作        枝吉水門操作        大井手堰水門操作</li> <li>・流域対策        水路貯留：用水路（徳永線、南里線、城西）の事前排水</li> </ul>
自 助	ハード 対策		—
	ソフト 対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の拡大防止：水防訓練を活用し土のう作成</li> <li>・河川清掃活動の推進：浚渫土の搬出（支援）</li> </ul>

年度計画（百万円）

名称	令和2年度	令和3年度	計
開渠	204	204	408
ポンプ施設	190	185	375
計	394	389	783

項目	内容・施策等
整備効果	<p>被害額：照査降雨では 4,448 百万円が軽減される。</p> <p>B/C：4.9</p> <p>経済的内部収益率（EIRR）：18.2%</p> <p>浸水区域面積：照査降雨では 74ha 減少する。</p> <p>ソフト対策、自助の整備効果等：</p> <p>内水ハザードマップによる情報提供や佐賀市ホームページによる防災情報の提供を行い、土のう設置等を併せて行うことにより、建物への浸水を軽減する。</p>
放流先河川との調整状況	<p>本対象地区は、佐賀江川、新川、八田江等の筑後川水系の1級河川及び本庄江、地藏川等の嘉瀬川水系の1級河川を放流河川とするが、全ての河川は、概ね治水安全度確率50年で整備済みである。一方、下水道計画の規模は確率10年であるので、河川に放流する場合の制約はなく、レベル1'の降雨（H24年7月「九州北部豪雨」）に対しても、これらの河川では外水氾濫はなく内水氾濫であった。</p>
その他	<p>佐賀市では、佐賀市が目指す浸水を軽減するための方向性を明確にし、必要な事業などを推進するための指針となる「佐賀市排水対策基本計画」を平成25年度に策定した。</p>